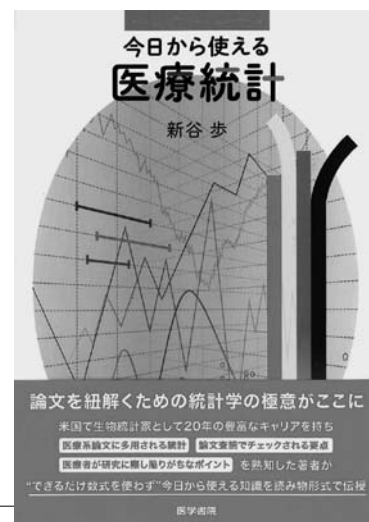


今日から使える医療統計

評者

佐々木宏治 テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター
Clinical Fellow・Leukemia



臨床研究をするに当たりどの統計手法を使うべきなのだろうか？ 論文を読むたびに目にする統計手法は正しい手法なのだろうか？ それぞれの統計解析の意味はいったい何なのだろうか？——論文を読む際、また自分自身が臨床研究をするに当たって、このような疑問を感じたことはありませんか。私がそのような疑問を抱えた時に巡り合ったのが、2011年に新谷歩先生が週刊医学界新聞に寄稿された「今日から使える医療統計学講座」シリーズでした。

統計学の教科書をひもとくと、一つ一つの統計解析に関して解説が詳細に述べられていますが、臨床研究をするに当たりどのように統計テストを選択していくかを解説しているものは非常に少ないと感じます。

新谷歩先生の連載に出会うまではスチューデントのt検定、クラスカル・ウォリス検定、ピアソンのカイ2乗検定、ログランク検定、対応のあるt検定、スピアマンの順位相関係数……と、数々の統計テストの名前に圧倒され、統計学の教科書を読んで、いつかは知識が定着してくれば良いかと当てもない努力を繰り返していました。

新谷先生の連載と出会ってはっと気付かされたのは、それぞれの統計解析の枝葉を学習することに血道を上げ

ていて、統計手法にはどれを選択すべきなのか、幹となるべき全体像を把握していなかったということでした。その後、新谷先生の連載を何度も読み返すにつれ、それまで断片的であった点と点がお互いに線で結び付き合い始め、統計解析が自身で活用できる生きた知識に変わる一番大きなきっかけであったと思います。

今回、新谷歩先生が週刊医学界新聞に連載された記事をもとめて単行本として出版され、その内容はさらにわかりやすくなっています。読み進めれば、書かれている内容を理解しようと積極的に頭が働いていることを、自然と実感されると思います。

臨床研究に意欲ある医学生・初期研修医の先生方、これからまさに臨床研究に取り組もうとされている後期研修医・大学院生の先生方、後輩に統計指導をするに当たり何か良い本がないかと探されている教育者の先生方、現在臨床研究をされていて統計手法を振り返りたいコメディカルの方々……と、幅広い読者にお薦めできる書籍です。

この書籍をきっかけにより多くの方々が臨床研究に関心を持たれ、また臨床研究の発表が日本から世界へ多くつながることを願っております。

新谷 歩 著

A5判/176頁/2015年/定価(本体2,800円+税)/ISBN978-4-260-01954-5/医学書院 刊